

技術・家庭科学習指導案（家庭分野）

指導者 佐藤 純子

- 1 日時 平成27年7月3日（金） 2校時
- 2 学級 1年1組 男子17名 女子15名 合計32名 南校舎2階1年1組教室
- 3 題材名 自分らしく着る・快適に着る

4 題材について

学習指導要領「C 衣生活・住生活と自立」の中に「(1) ア 衣服と社会生活とのかかわりを理解し、目的に応じた着用や個性を生かす着用を工夫できること。 イ 衣服の計画的な活用の必要性を理解し、適切な選択ができること。 ウ 衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れができること。」とある。また、「D 身近な消費生活と環境」の中には「(2) ア 自分や家族の消費生活が環境に与える影響について考え、環境に配慮した消費生活について工夫し、実践できること。」とある。循環型社会を目指そうとしている今、衣生活を一連のサイクルと捉え、環境に配慮した衣生活について考える視点をもつこと、生活場面で実践していくための力をつけることは、これからの社会を生きる生徒が、自立した衣生活を送るためには必要なことだと考える。本題材は、衣生活に関する基礎基本的な知識と技能を習得し、それらの学習をもとに環境に配慮した衣生活（入手、着用、手入れ、不用衣服）のあり方について考え、実践につなげていくことをねらいとしている。

生徒たちは思春期を迎え、メディアなどから情報を得ながら、自分で衣服の選択をするようになってきており、将来的な自立を目指し、これまでの衣生活についての学習を生かしながら、機能面や経済面を意識しながら衣生活を送っていこうとする意識が育ってきている。しかし、実際に衣生活にかかわる場面は少なく（洗濯は自分でやっている生徒は1割弱、ボタンつけなどの補修を自分でやっている生徒は2割程度）、持続可能な社会を目指して環境とのかかわりを考慮しながら衣生活を考えていこうという視点はほとんどもっていない。また、自分の考えを順序立てたり理由を述べたりしながら人に伝えようという意識や、生活の中で行われていることの理由や意義を考えようという意識はまだ十分ではない。

授業においては、衣生活のサイクルを意識しながら、衣生活と社会生活とのかかわり、衣服の計画的な活用や適切な選択、日常着の手入れなどについて学習する。洗濯や補修については小学校の学習や日常生活での経験はあるものの、経験知の差が大きいため、具体物にふれさせたり具体的な場面を設定したりする場面を多く設け、生活に生かせる知識や技能として身に付けられるように配慮していく。また、家庭生活と学習事項の関連を図り実践化につなげるために、手持ちの衣服調べや取扱い絵表示の読み取りなどの課題を出し、家庭学習で取り組ませていく。題材の最後には、よりよい衣生活を目指すという観点から「環境」という視点で衣生活のサイクルを見直し、課題意識をもって衣生活について考えさせ、主体的に衣生活に関わっていこうとする意識を高め、実践化が図られるようにしていきたい。

5 指導と評価の計画（別紙）

6 本時の達成目標

生活や技術への関心・意欲・態度	
生活を工夫し創造する能力	自分や家族の衣生活を環境という視点から見直して点検し、課題を見付け、その解決を目指して考えたり、自分なりに工夫したりしている。 〈生徒の記述例〉 <ul style="list-style-type: none">生活排水への影響を少なくするために、洗剤を、すすぎの回数が少なくてよいものに変える。資源としての衣服を大切にするために、手入れをちゃんと行って長く着るようにしたい。省エネのために、しわになりにくくてアイロンがけをあまりやらずにいいポリエステルを買うようにする。
生活の技能	
生活や技術についての知識・理解	

7 本時の指導構想

(1) 本時のねらい

本時は、評価規準の「生活を工夫し創造する能力」の「自分や家族の衣生活を環境という視点から見直して点検し、課題を見付け、その解決を目指して考えたり、自分なりに工夫したりしている。」を主にねらったものである。

(2) 「論理の意識化を図る学習活動」にかかわって

【考えがいのある課題設定】

学習課題を「環境という視点から、よりよい衣生活のために工夫できることを考えよう」と設定する(2. 課題を把握する。)

課題解決の基となるのは、これまでの前時までの学習(着用の工夫、計画的な活用、適切な選択、手入れなど)と衣生活と環境について考える際の視点「省エネルギーを目指す」「環境への影響を少なくする」「資源(衣服)を大切に使う」である。これらについては、本時の導入で確認する(1. 前時までの復習をする。)ほか、課題提示後に提示する(3. 衣生活と環境のかかわりを考える際、次の3つの視点があることを知らせる。)

【「論理の思考型」を用いた言語活動】

特に、類別思考を用いて考えさせたい。根拠をもって説明させるために「～より～の方がいい。理由は～」という話型に当てはめて自分の考えを発表させる(5. 教科書の例題をもとに、3つの視点から考えた場合、どのような行動が考えられるかを説明し合う。)

また、1回目の自己決定も同じ類推思考で思考を進めさせ、環境とのかかわりの中でよりよい衣生活を営むための工夫について考えさせる(6. 自分の考えをまとめる。)

2回目の自己決定では、自由に論理を展開できるように特に話型を決めないで思考をさせるため、類推思考「～では～なので、おそらく～」をつかう生徒もいると思われる(9. 各グループなら出された考えを参考に、自分が衣生活の中で実践していきたいことを文章にまとめていく。)

【かかわり合い】

本時では、3度のかかわり合いを設定する。

1度目は、例題として提示されたものについて類別思考を用いて自分の考えを説明する場面で、隣同士のかかわり合いを設定する。ここでは、自分の考えをことばに出してみることで、自分の論理の妥当性について確認することをねらいとする(5. 教科書の例題をもとに、3つの視点から考えた場合、どのような行動が考えられるかを説明し合うことで、理解の確認を行う。)

2度目は、1回目の自己決定をしたあとの場面で、グループでのかかわり合いを設定する。ここでは、互いの考えを交流しあうことで、論理的に説明をしたり、考えを広げたりすることをねらいとする(7. グループ毎に衣生活のサイクルの各場面の中で実践できそうなことを考える。)

3度目は、グループでのかかわり合いのあとの場面で、全体でのかかわり合いを設定する(8. 各グループの考えを発表し、意見交換を行う。ここでは、出てきた意見の価値付けをすること、その考えの良さを確認することをねらいとする。)

【自己評価活動】

終末において自己評価活動を行う(11. 自己評価する。)

衣生活と環境のかかわりについて考えることの必要性や大切さについての気づきや、環境に配慮した衣生活に積極的に関わっていききたい、実践化につなげたいという意欲などを記述できるようになってほしい。

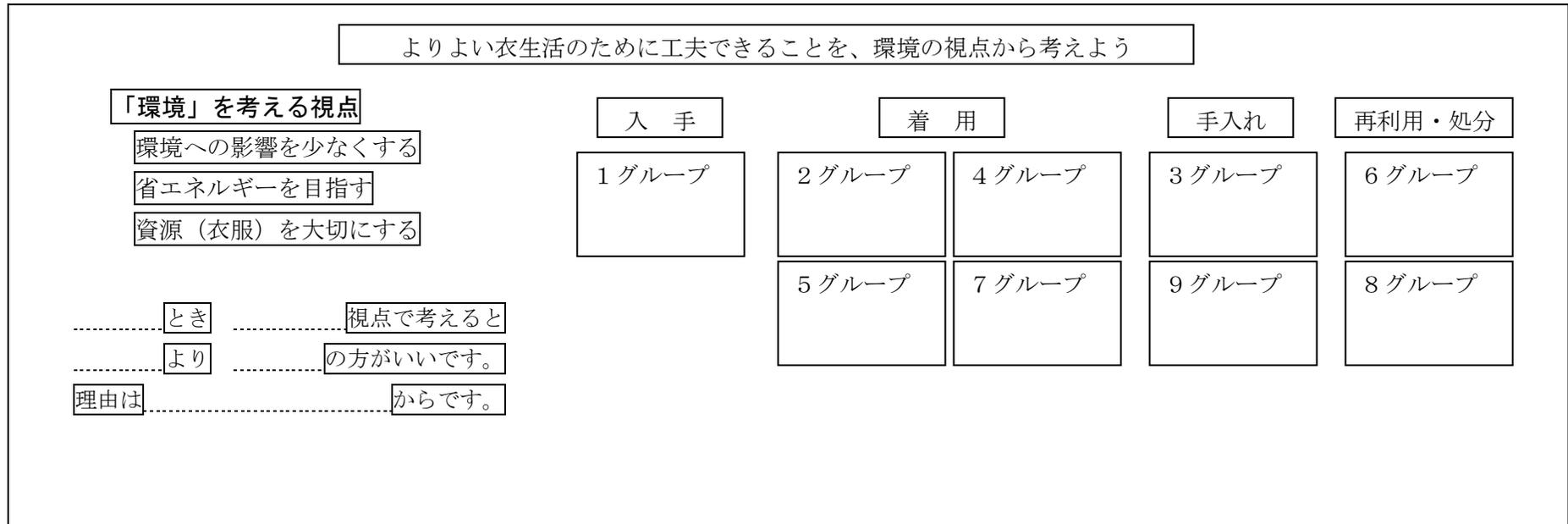
8 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点・方法	教材・教具等
導入 3分	1. 前時までの復習をする。 2. 課題を把握する。	1. 着用、入手、手入れなどについて学習してきた内容を確認する。衣生活のサイクルも確認する。 2. 環境問題について知っていることを聞き、課題		学習プリント
	環境という視点から、よりよい衣生活のために工夫できることを考えよう			
展 開 37分	3. 衣生活と環境のかかわりを考える際、次の3つの視点があることを知らせる。 4. 洗濯排水の汚れ具合の資料から、視点のもち方と、考えの道筋について理解する。 5. 教科書の例題をもとに、3つの視点から考えた場合、どのような行動が考えられるかを説明し合う。 【かかわり合い①】 【類推思考】 6. 自分の考えをまとめる。 【自己決定①】 【類推思考】 7. グループ毎に衣生活のサイクルの各場面の中で実践できそうなことを考える。 【かかわり合い②】 8. 各グループの考えを発表し、意見交換を行う。 【かかわり合い③】 9. 各グループから出された考えを参考に、自分が衣生活の中で実践していきたいことを文章にまとめていく。 【自己決定②】 10. 学習課題に対して振り返り、本時のまとめを確認する。	3. 考える視点を明らかにする。 ①省エネルギーを目指す ②環境への影響を少なくする ③資源（衣服）を大切に 4. 論理の思考型に当てはめ、根拠をもって説明させ、洗剤の適量を守ることは、汚れ落ちや経済面を考えても適切な行動であることを確認する。 5. 論理の思考型に当てはめながら、視点に沿って説明させる。生徒の教え合いを通して、ことばの理解や使い方の不十分さを修正・補充していくよう指示する。 6. 自分の衣生活を振り返り、できそうなことをプリントに記入する。 7. 発表用のシートに書かせる。根拠を明らかにしながら発表する準備をしておくことを指示する。 8. 行為の有効性が確認できるように話し合いをコーディネートする。 9. どの場面のどんな行為なのか、取り上げた視点は何なのか、論理の思考型にそって根拠をまとめるように指示する。	9.【生活を工夫し創造する能力】 自分や家族の衣生活について、環境に配慮した衣生活という視点から課題を見付け、その解決を目指した取り組みを考え、工夫している。 〈学習シートの記述〉 A：Bに加え、その解決を目指した複数の方法の中から自分に合った取り組みを考え、期待される効果について予測を加えながら工夫している。 C：教科書の例を示し、自分の生活に取り入れられそうか考えさせる。	紙板書：3つの視点 紙板書：洗濯排水の汚れの写真、洗剤の適量のグラフ 発表用シートマジック
終末 10分	11. 自己評価する。			
	<ul style="list-style-type: none"> ・衣生活と環境問題は関係ないと思ったが、入手の仕方や洗剤の量に気をつけることで、環境により衣生活が送れると思った。これまでは、母親に任せることが多かったが、環境のことを考えながら、進んで行っていきたい。 ・夏は涼しく過ごすために半袖や白いものをきていたが、それは環境のためにもなるということを知った。省エネに気をつけることは、環境だけでなく、経済的にもいいことなので、工夫しながら実践していきたい。 			

指導と評価の計画

1 年 家庭	題材名	自分らしく着る・快適に着る	総時間	9時間扱い
学習指導要領の指導事項		題材の目標		
C 衣生活・住生活と自立 (1) ア 衣服と社会生活とのかかわりを理解し、目的に応じた着用や個性を生かす着用を工夫できること イ 衣服の計画的な活用を必要を理解し、適切な選択ができること ウ 衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れができること (3) イ 衣服に関心をもち、課題をもって衣生活について工夫し、計画を立てて実践できること D 身近な消費生活と環境 (1) イ 販売方法の特徴について知り、生活に必要な物資・サービスの適切な選択、購入及び活用ができること (2) ア 自分や家族の消費生活が環境に与える影響について考え、環境に配慮した消費生活について工夫し、実践できること		<p>○衣服と社会生活とのかかわりを理解し、目的に応じた着用や個性を生かす着用を工夫することができる。衣服の計画的な活用を必要を理解し、適切な選択をするとともに、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れをすることができる。</p> <p>○衣服に関心をもち、自分や家族の衣生活が環境に与える影響について考え、環境に配慮した衣生活という視点から課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫することができる。</p>		
生活や技術への関心・意欲・態度		生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
<p>関① 衣服と社会生活とのかかわりに関心をもち、時・場所・場合に応じた衣服を着用しようとしている。</p> <p>関② 衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れに関心をもち、手入れや補修の課題に取り組もうとしている。</p>		<p>工① 目的に応じた衣服の適切な選択について、収集・整理した情報を活用しながら、着用や個性を生かす着用について考え、工夫している。</p> <p>工② 衣服の材料や状態に応じた洗濯や補修について考え、工夫している。</p> <p>工③ 自分や家族の衣生活を環境という視点から見直して点検し、課題を見付け、その解決を目指して考えたり、自分なりに工夫したりしている。</p>	<p>技① 衣服の材料や汚れ方に応じた手入れの方法を選択することができる。</p> <p>技② 補修の目的と布地に適した方法で衣服を補修することができる。</p>	<p>知① 衣服の計画的な活用を必要性や既製の表示と選択に当たっての留意事項について理解している。</p> <p>知② 衣服の手入れの必要性や洗濯の方法と要点について理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 衣服材料の手入れにかかわる性質 洗剤の働きと種類 電気洗濯機を用いた洗濯の特徴 汚れ方に応じた洗い方
主な学習活動		おおむね満足 (B)	十分満足 (A) の例	評価事例
1	○衣服のはたらき ・小学校の学習を振り返る。 ・衣服の社会生活上のはたらきについて例を見ながら関心をもち。	関① 衣服と社会生活とのかかわりに関心をもち、時・場所・場合に応じた衣服の着用について考えようとしている。	・衣服と社会生活とのかかわりに関心をもち、時・場所・場合に応じた衣服の着用について、 <u>自分の生活とかかわらせながら考えようとしている。</u>	<p>9 各グループから出された考えを参考に、自分が衣生活の中で実践していきたいことを文章にまとめていく場面。(工③ 学習プリント)</p> <p>自分の衣生活の問題点とそれを解決するための工夫点の間に整合性があるか、有効性が論理的に述べられているか、実生活に即したものか、具体的な取り組み方法が書いてあるかなどを評価対象とする。</p> <p>■おおむね満足 (B)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活排水への影響を少なくするために、洗剤を、すすぎの回数が少なくてもよいものに変える。 資源としての衣服を大切にするために、手入れをちゃんとして長く着るようにしたい。 省エネのために、しわになりにくくてアイロンがけをあまりやなくていいポリエステルを買うようにする。 <p>■十分満足 (A) の例</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活排水への影響を少なくするために、洗剤を、すすぎの回数が少なくてもよいものに変え、<u>洗剤の量も決められた通りの量を入れる。</u> 資源としての衣服を大切にするために、手入れをちゃんと行って長く着るようにし、<u>もし小さくなら、いとこにあけるようにしたい。</u> 省エネのために、しわになりにくくてアイロンがけをあまりやなくていいポリエステルのもを買うようにし、<u>アイロンがけのときも余熱を利用するようにする。</u> <p>自分や家族の衣生活について、環境に配慮した衣生活という視点から課題を見付け、その解決を目指した取り組みを考え、工夫している。</p> <p>自分や家族の衣生活について、環境に配慮した衣生活という視点から課題を見付け、その解決を目指した複数の方法の中から自分に合った取り組みを考え、期待される効果について予測を加えながら工夫している。</p> <p>【C : 指導の手立て】 教科書の例を示し、自分の生活に取り入れられそうか考えさせる。</p>
2	○自分らしく目的に合う着方 ・コーディネートする際のポイントを知り、実際にT. P. O. に合わせた自分らしいコーディネートを考える。	工① 目的に合わせた着方や自分らしく着るための衣服のコーディネートについて考え、工夫している。	・目的に合わせた着方や自分らしく着るための衣服のコーディネートについて考え、 <u>複数のパターンを考えたり、帽子やマフラーなどの小物を加えたりしながら工夫している。</u>	
3	○衣服の活用と選び方 ・既製服についての5つの表示の意味と種類、表示の読み取り方、既製服の選び方について知る。	知① 衣服の計画的な入手と活用の必要性や既製の表示の種類と意味、既製の選び方について理解している。	・衣服の計画的な入手と活用の必要性を費用、 <u>収納スペース、管理の手間、環境への影響などの観点から説明でき、既製の表示の種類と意味、表示に記載されている数字や絵の表している意味、既製の選び方について理解している。</u>	
4	○衣服の汚れと手入れ ・衣服の汚れの種類と汚れを落とす必要性について資料から読み取ったり、経験を出し合ったりして理解を深める。 ・手入れの方法と、その後の保管の方法について知る。	知② 衣服の手入れや保管の必要性、洗濯の方法と要点について理解している。 ・衣服材料の手入れにかかわる性質 ・洗剤の働きと種類 ・電気洗濯機を用いた洗濯の特徴 ・汚れ方に応じた洗い方	・衣服の手入れや保管の必要性、洗濯の方法要点について理解し、 <u>具体的な場面を用いて説明できる。</u>	
5	○手入れと表示 ・繊維の手入れにかかわる性質を確認する。 ・取扱説明書の読み取りを確認し、実際の衣服から情報を読み取ってまとめる。	技① 取扱説明書を読み取り、衣服の材料に応じた手入れの方法を選択することができる。	・取扱説明書を読み取り、衣服の材料に応じた手入れの方法を選択し、 <u>繊維の種類や性質を踏まえながら、手入れの方法を説明することができる。</u>	
6	○衣服の洗濯 ・洗濯の種類と特徴、洗い方などの確認をし、持ち寄った衣服の洗濯の計画を立てる。	工② 衣服の材料や状態に応じた洗濯や補修について考え、工夫している。	・衣服の材料や状態に応じた洗濯や補修について考え、 <u>複数の視点から、または複数の点で工夫している。</u>	
7 ・ 8	○衣服の補修の実践 ・衣服の補修に必要な縫い方の方法や注意点、アイロンかけの手順や注意点について実践する。	関② 日常着の手入れに関心をもち、補修の課題に取り組もうとしている。 技② 目的と布地に適した方法で縫うことができる。	・日常着の手入れに関心をもち、 <u>自分なりの目標をもって補修の課題に取り組もうとしている。</u> ・目的と布地に適した方法で縫い、 <u>丈夫で美しく仕上げる</u> ことができる。	
9 (本時)	○環境に配慮した衣生活 ・衣生活と環境のかかわりという視点から考えた場合、どのような行動が考えられるか考える。意見交流を行ったあと、課題を設定し、課題解決のために実践していきたいことをまとめる。	工③ 自分や家族の衣生活について、環境に配慮した衣生活という視点から課題を見付け、その解決を目指した取り組みを考え、工夫している。	・自分や家族の衣生活について環境に配慮した衣生活という観点から課題を見付け、その解決を目指した複数の方法の中から <u>自分に合った取り組みを考え、具体的な場面を想定したり、期待される効果について予測を加えながら工夫している。</u>	

【板書計画】



内在 ⇒ 表出 ⇒ 内在 ⇒ 表出

- * 情意面を伴った思考が大切
- * ESDの視点を生かした指導

C 衣生活・住生活と自立

1

3 環境に配慮

資源、生活排水
エネルギー

P 170～173)

3

環境に配慮し

課題

よりよい衣生活のために工夫できることを、環境の視点から考えよう

◎「環境」を考える視点

- ・省エネルギーを目指す
- ・環境への影響を少なくする
- ・資源（衣服）を大切にす

【思考の流れ】

()とき、()の視点で考えると、
 ()より()の方がいいです。
 理由は、()だからです。

◎環境に配慮した衣生活のために

①【自己決定①】どんな場面でどんな工夫ができるか考えよう。

.....とき、.....視点で考えると、
 ..(.....)より.....の方がいいです。
 理由は、.....だからです。

②【かかわり合い】グループで発表し合い、紹介したい工夫を用紙にまとめよう。
 *理由を発表できるように準備する。その考えを選んだわけも説明できるようにしておく。

③【自己決定②】自分の衣生活を振り返り、これから実践していきたいことや続けていきたいことを具体的に書きましょう。

◎【自己評価】今日の授業でわかったこと、深まった考えなどを書きましょう

.....

.....

.....

C 衣生活・住生活と自立 **1** 3 環境に配慮した衣生活 (教P170～173)
3 環境に配慮した衣生活

課 題

◎「環境」を考える視点

【思考の流れ】
()とき、()の視点で考えると、
()より()の方がいいです。
理由は、()だからです。

◎環境に配慮した衣生活のために

①【自己決定①】どんな場面でどんな工夫ができるか考えよう。

.....とき、.....視点で考えると、
.....より.....の方がいいです。
理由は、.....だからです。

②【かかわり合い】グループで発表し合い、紹介したい工夫を用紙にまとめよう。
*理由を発表できるように準備する。その考えを選んだわけも説明できるようにしておく。

③【自己決定②】自分のこれまでの衣生活を振り返り、これから改善していきたいことや続けていきたいことを具体的に書きましょう。

◎【自己評価】今日の授業でわかったこと、深まった考えなどを書きましょう

.....

.....

.....

【資料】C 衣生活・住生活と自立 1 3 環境に配慮した衣生活 (教P170～173)
3 環境に配慮した衣生活

《自分の考えを整理して発表し、聞く人に伝わるようにしよう。》

1 教科書の問いについて考えよう

①冷水とふろの残り湯では、どちらの方が汚れが落ちるだろうか。

(洗濯をする) とき、(環境への影響を少なくする) ためには、
(冷水) より (ふろの残り湯) の方がいいです。
理由は、(ふろの残り湯を再利用することで、家庭から出る排水の量が少なくなる) からです。

②干し方をどのように工夫すれば、アイロンかけを省けるだろうか。

(アイロンをかける) とき、(省エネルギーを目指す) ためには、
(そのまま干す) より (しわを伸ばしてからかける) の方がいいです。
理由は、(節電につながり、省エネルギーになる) からです。

2 自分たちの考えたアイデアを発表しよう

*発表のときに、この形で発表できるように、考えをまとめておきましょう。

() とき、() ためには、
() より () の方がいいです。
理由は、() だからです。

とき

視点で考えると

より

方が

いいです。理由は…

衣服が小さくなったとき

資源を大切にする視点で考えると

捨てるより

方が

いいです。理由は…

「環境に配慮した衣生活」を学習して

自己評価活動の実際

(男子)

(女子)

(女子)

(女子)

(男子)

(女子)